

フランス剣道の紹介

(松田 守且 渉外部会フランス担当 記)

フランスはヨーロッパにおける剣道大国です。

2010年現在で会員数9000名。パリ周辺には7つぐらいの剣道クラブが存在し、毎日の稽古場に事欠かないほどです。2013年のヨーロッパ大会(ドイツ開催)においても、フランスは男子団体戦優勝、男子個人2位、女子団体2位、ジュニアチーム団体優勝、ジュニアチーム個人優勝の成績を収め、強豪の実力を示しています。

フランス剣道界には、1970年から現在まで、フランス剣連の顧問として剣道の普及に尽力され、また海外剣道家として初めて8段に昇段された好村兼一先生がおられます。

この好村先生がまだ東大の学生であった頃、「君たちのうちでフランス語をやっている者はいるか?」とたずねられ、フランスに学生指導派遣第一号として好村先生を派遣されたのが、当時の東大剣道部師範であった滝澤光三範士です。先生は欧州剣道の育成をされました。

フランスで初めて剣道が実践されたのは1950年代後半ですが、その後、

1972年：フランス剣道連盟発足 会員数400名

1980年：会員数1400名

1982年：思斉館から滝澤光三、滝澤建治先生ら10人がパリで5日間の講習会を開催

1985年：パリで第5回世界剣道選手権大会を開催

1989年：厚木から5人の男性と5人の女性剣士がパリでフランス女性剣士と試合と稽古会

1990年：会員数1900名

1994年：パリで第8回世界剣道選手権大会を開催

1998年：第一回パリ大会を開催：フランス駐在中の松田が参加

2001年：第二回パリ大会を開催：滝澤会長が全剣連から派遣され8段の模範試合を実施

その後、3~4年に一度パリ大会実施。毎回、厚木(神奈川)から数名の剣士が参加

特に剣道を修練する世代も40年目を迎え、確実に広がり、子供が稽古する風景は全く日本と変わりません。青い目の豆剣士そのものです。彼らの運動能力と、子供のころから稽古したやわらかい剣道が組み合わせれば、将来は確実に、世界大会などで日本を苦しめることになるでしょう。フランス人の剣道は剣道形から入るといっても過言ではありません。初心者でも形の稽古を好み、異文化の精神性を楽しんでいるかの様に、正しい剣道を学んでいます。

また全剣連から七段から八段の指導員の先生が毎年半年程度派遣されており、各地の剣道クラブで指導しながら現地の剣道育成に励んでおられます。現地の剣道クラブも大変遠くから指導の先生を迎えに来て、「スタージュ」と呼ばれる合宿訓練を行うなど、全く剣道を人生の一部として楽しんでいます。日本の駐在員にとっては、剣道に対する考え方のまた新たな発見となり、彼らから剣道と人生の楽しみ方を教えられる機会が多いです。

現在は2月にフランスオープン大会が毎年開催されています。皆様もこの大会に参加され、草の根交流をぜひお願いします。



2014年ヨーロッパ剣道選手権にて フランス VS セルビア (You tube より)



パリ市内の BUDO 11=ブドウオンズクラブにて稽古が終わった後は剣友とバール（右写真）で剣道好村先生（左写真の前段中央）とクラブ員たちと談義に花を咲かすのがフランス流（バールはフランス市民がコーヒーやビール片手に人生を語り合う軽食喫茶店です）



BUDO 11 の 合宿稽古風景 2014 6月7.8日 サン=マンデ (パリ郊外) にて



フランス国内大会 Championnat Excellence (上級リーグ選手権) の表彰式にて